



「80周年」に思う

頭取 大道良夫

滋賀銀行は10月1日、創立80周年を迎えさせていただきました。長きにわたる地域・お取引先の皆さまのご愛顧と支援に心より御礼を申し上げます。

滋賀銀行は昭和8年、彦根の百卅三銀行（明治12年設立）と近江八幡の八幡銀行（明治15年設立）が合併して創立されました。

当時、第1次世界大戦の反動恐慌、関東大震災に伴う昭和2年からの金融恐慌により、全国で金融機関の経営不振による合併が進められ、普通銀行は7年末には538行にまで半減しました。滋賀県では大正12年5月、当時の堀田知事が県内15行を招集し、「1県1行」を要望された、と記録にあります。

このような状況下、百卅三、八幡の両行は健全経営を堅持していましたが、「経営基盤を等しくし、店舗の近接重複するものも多く、（中略）両行を一経営体として経営合理化の実現を期す」との方針で合併を決断しました。「地方の中核銀行を形成しようとする全国最初の試み」と、合併幹旋の労をとられた日本銀行担当官の記録に残されています。

さて、旧彦根藩士に金融の便を与えることを設立趣旨とした百卅三銀行は、万事、石橋をたいて渡る「健全経営」を堅持し、一方、「貨幣流通と殖産興業の道を自ら得ん」とする近江商人による八幡銀行は京都大阪経済界との交流を深め、大都市の事業にも積極的に参画するなど両行の行風は対照的でした。

両行の合併は、まさに「健全」と「進取」の概の一体化でした。滋賀銀行はそのDNAを

しっかりと受け継ぎ、戦中・戦後の混乱期やバブル狂乱期にも経営がぶれることはありませんでした。私は改めて今、この「健全」と「進取」を最も心すべきことと受け止めています。

全県的にこのような合併が進められた結果、16行あった銀行が収斂したのが滋賀銀行です。私は、まさに、県内それぞれの地域の人々、産業とともに当行の「今日」があることを深く肝に銘じる次第です。

こうして誕生した滋賀銀行は、昭和13年に京都支店、昭和16年に大阪支店をそれぞれ新設しています。開設の理由は「（近江商人が全国に雄飛した結果）郷土において事業を興す者少なく、（中略）産業の見るべきもの無きの事態にして資金運用の途甚だ乏しく」（開設申請書）とされ、県外進出はまさに「生き残り」をかけた決断でした。「（この大英断がなければ）今日の当行の実力はまさしく半減していた」と「滋賀銀行五十年史」は記しています。

当時、地方銀行の県外進出は、全国で当行が初めてであり、先輩たちの進取の気概を改めて誇らしく思うとともに、都市進出の先駆者として広域銀行の道を歩んだ先人のチャレンジ精神を、私たちも今こそ発揮すべく奮起せねば、と心を新たにしています。

創立80周年を節目に、先人の労苦と開拓精神に改めて思いを致し、地域・お取引先の皆さまとの「共存共栄」に一層魂を込めて取り組んでまいる所存です。

皆さまの倍旧のご支援、お引き立てをお願い申し上げます。